

新技術概要説明資料（2 / 5）

新技術名称

土壌改良材DWファイバー

登録No.

1654

（特 徴）

（長 所）

- ・ 特殊な解繊技術によって解繊化した有機資材に変えたことにより、保水性・透水性が改善され、品質の向上が図られる。
- ・ 製材時に発生する端材（未利用材）を利用するので、環境負荷を低減できる。
- ・ 製材時に発生する端材（未利用材）を原料とすることで資材単価が低減でき、経済性の向上が図られる。

（短 所）

- ・ 本資材は保水性の高いため、雨天時に運搬や土壌との攪拌に難があり、また氷点下時には固結するため施工が出来なくなることがある。

（施工方法）

①DWファイバーを散布

- ・ 50m3/100m2のDWファイバーを地表面に散布する。

②土壌と混合

- ・ 掘削深度を50cm，DWファイバーをバックホウで土壌にすき込む。

③敷均し

- ・ バックホウで敷均す。

④完成



（施工単価等）

1(1). 歩掛りあり（標準） 1(2). 歩掛りあり（暫定） 2. 歩掛りなし 2

掲載刊行物

建設物価（有・無） 掲載品目（土壌改良材）

積算資料（有・無） 掲載品目（土壌改良材）

その他（カタログなど）

（ ）

建設物価平成30年度4月版P426

土壌改良材 その他 中部価格：¥20,900

【添付資料①】建設物価（平成30年4月版）.pdf

【添付資料②】積算資料（平成30年6月版）.pdf

積算資料等

【添付資料③】積算単価表.pdf

施工管理基準資料等

現場搬入時に搬入数量と品質証明書に基づいて問題が無いことを確認する。

【添付資料④】品質証明書.pdf

新技術概要説明資料 (3/5)

新技術名称	土壌改良材DWファイバー	登録No.	1654
(適用条件)			
(適用できる条件) 現場条件：作業スペースとして、バックホウ回転半径として5m×5m=25m ² が必要であること。 ストックヤードとして10m ³ 当り4×3=12m ² 程度が確保できること。 荷姿はフレコン(1m ³)となり、荷降ろし・資材運搬が可能であること。			
(適用できない条件) 自然条件：大雨や強風時などの悪天候時には施工は行わないこと。また、氷点下時(0℃以下)には、資材が凍結するため施工は行わないこと。			
(設計上の留意点) ・重金属や汚染物質などを含有していない土であることを事前に調査する。 ・混合量については土を事前調査、予備試験を実施し決定する。			
(施工上・使用上の留意点) ・本資材と土を十分に攪拌、混合すること。 ・雨天時や長雨等により土の含水率が極端に高い状態での施工は避けること。			
(残された課題と今後の開発計画) 本製品は使用用途によって粒径を変えることを検討中。			
(実験等作業状況) 海岸防災林の盛土材料6試料の内、パーライトでは2試料、DWファイバーでは4試料において透水性30mm/hr以上とすることができた。			
(添付資料) 実験資料等 【添付資料⑤】透水性試験結果.pdf			
その他 特になし			
特許	■1. 有り (番号:6322689) □2. 出願中 □3. 出願予定 □4:無し		番号 特許番号 特許6322689
実用新案	□1. 有り (番号:) □2. 出願中 □3. 出願予定 □4:無し		番号 新案番号
評価・証明	建設技術評価制度番号	民間開発建設技術の審査証明番号	
		JASOM-180203	
	証明年月日	証明年月日	
		2018/2/5	
	証明機関	証明機関	
		一般社団法人有機JAS資材評価評議会	
その他の制度等による証明	制度等の名称	制度等の名称	
		有機JAS	
	制度名、番号	制度名、番号	
		鳥取県認定グリーン商品 第736号	
	証明年月日	証明年月日	
		2018/3/13	
	証明機関	証明機関	
	鳥取県商工労働部産業振興課		
	証明範囲	証明範囲	
	農業・緑化財投		

新技術概要説明資料 (5 / 5)

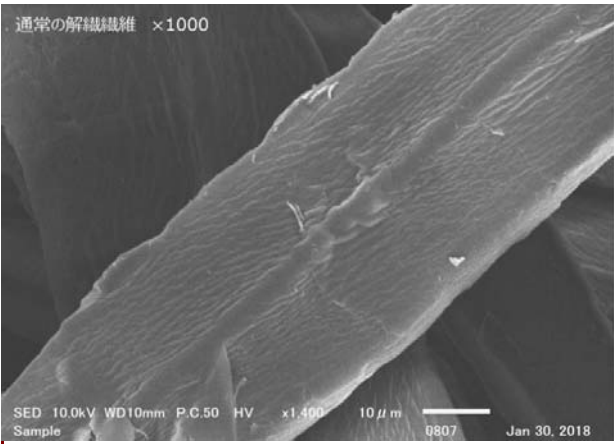
新技術名称	土壌改良材DWファイバー	登録No. 1654
-------	--------------	------------



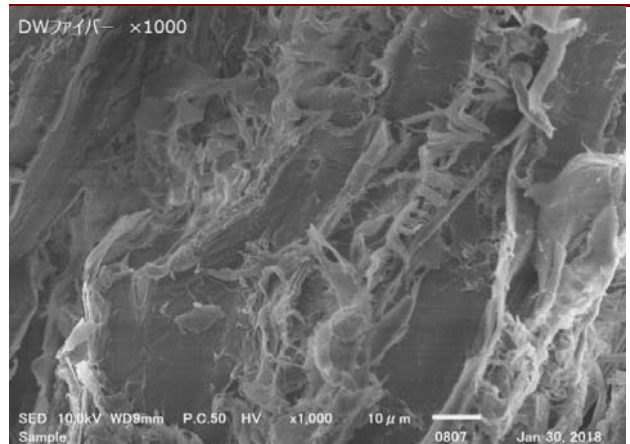
製品容姿



運搬荷姿



通常の解繊処理した繊維



特殊処理したDWファイバー

